

平成 14 年 5 月 10 日

平成 14 年 6 月期第 3 四半期の業績等の概況（連結）

上場会社名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
 （コード番号：7707）
 本社所在地 千葉県松戸市上本郷 88
 問合わせ先 取締役 経営企画部長 秋本 淳
 TEL 047-303-4800

1. 連結業績

(1) 平成 14 年 6 月期第 3 四半期（平成 13 年 7 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日）の業績
 （百万円未満切り捨て）

	平成 14 年 6 月期 第 3 四半期累計 (当四半期)	対前年同 期増減率	平成 13 年 6 月期 第 3 四半期累計 (前年同四半期)	参考 平成 13 年 6 月期 (通期)
	百万円	%	百万円	百万円
売 上 高	932	-	-	-
売 上 総 利 益	302	-	-	-
営 業 利 益	359	-	-	-
経 常 利 益	364	-	-	-

- (注) 1. 当連結会計年度から連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期および前年通期の数値は記載しておりません。
 2. 当四半期における連結子会社は 3 社であります。
 3. 当四半期に係る数値については、監査法人の監査を受けておりません。

(2) 製品区分別の売上高内訳

(百万円未満切り捨て)

	平成 14 年 6 月期 第 3 四半期累計 (当四半期)		対前年同 期増減率	平成 13 年 6 月期 第 3 四半期累計 (前年同四半期)		参考 平成 13 年 6 月期 (通期)	
	金額	構成比		金額	構成比	金額	構成比
	百万円	%	%	百万円	%	百万円	%
DNA 自動抽出装置	528	56.7	-	-	-	-	-
その他理化学機器	102	11.0	-	-	-	-	-
そ の 他 製 品	109	11.7	-	-	-	-	-
商品(プラスチック消耗品)	192	20.6	-	-	-	-	-
合 計	932	100.0	-	-	-	-	-

- (注) 1. 当連結会計年度から連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期および前年通期の数値は記載しておりません。
 2. 当四半期における連結子会社は 3 社であります。
 3. 当四半期に係る数値については、監査法人の監査を受けておりません。

(3) 主な資産・負債の変動について

当連結会計年度から連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

2. 業績の概況

(1) 具体的な取組み

当上半期（自平成 13 年 7 月 1 日 至平成 13 年 12 月 31 日）の当社グループにおきましては、海外 100%子会社 3 社を設立し、本格的なグローバル展開を実施するための体制作りを行いました。また、研究開発活動の成果として、DNA 自動抽出装置の新機種の製品化を実施し、品揃えの強化を行いました。更に、今後の研究開発活動と営業活動の強化を目的とした人材確保も実施いたしました。

この活動を踏まえて、第 3 四半期（自平成 14 年 1 月 1 日 至平成 14 年 3 月 31 日）におきましては、海外子会社を通じて、米国の新規 OEM 先の開拓と欧州の既往 OEM 先に対する新機種の売込みを展開いたしました。現在も交渉継続中であり、来期の業績には収益及び利益共に貢献できるものと考えております。また、欧州の試薬・機器メーカーと当社特許技術のロイヤリティ契約の締結も検討中であり、新たな収益モデルの確立も目指しております。

更には、超小型自動核酸抽出装置（SX-6GC）に関する自社販売も開始いたしました。現状は、マーケティングを兼ねたプレ販売で、初回製造ロット 20 台の販売活動を行っておりますが、本年 7 月から年間 200 台程度の量産体制を確立し、本格的に販売を開始する予定です。

(2) 当四半期の業績等の概況

当社グループの当四半期は、1 月以降の DNA 自動抽出装置の出荷が順調に推移したことから連結売上高 932 百万円となりました。既存製品に関するコストダウン等が功を奏し、売上総利益においては 302 百万円の利益を計上することができました。

しかしながら、開発費 241 百万円や新たに設立した海外 3 子会社の先行経費負担の他、人件費、展示会費用等の販管費の負担増加を吸収しきれず、営業損失 359 百万円、経常損失 364 百万円となりました。研究開発活動や海外展開にかかる費用は、現時点では収益圧迫要因ではありますが、当社グループの事業展開上、必要不可欠な先行投資と考えております。

当期の四半期毎の業績推移は下表のとおりであります。直近の第 3 四半期に関しては、売上高が増加し損益面での赤字幅が縮小しております。当社グループの主力製品である DNA 自動抽出装置に関しては、今後の市場拡大が十分に期待できることから、更なる売上増加に努め赤字からの脱却を目指してまいります。

（百万円未満切り捨て）

	平成 14 年 6 月期			当四半期 （累計）
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	
	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高	288	228	415	932
売上総利益	97	65	138	302
営業利益	99	171	88	359
経常利益	102	174	87	364

（注）当連結会計年度から連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較は行っていません。

各製品区分別の販売状況は、以下のとおりであります。

DNA 自動抽出装置

当四半期は、150 台を販売し、売上高は 528 百万円となりました。四半期毎の実績推移は下表のとおりであります。上半期には、個別 OEM 先の事情により出荷台数が落ち込みましたが、本年 1 月以降は順調な出荷を見せております。

(千円未満切り捨て)

	平成 12 年 6 月期		平成 13 年 6 月期				平成 14 年 6 月期		
	第 3 四半期	第 4 四半期	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期
販売台数	62	37	59	65	47	70	39	36	75
金額(千円)	219,632	97,724	164,415	191,229	140,446	199,878	160,332	119,605	248,487
単価(千円)	3,542	2,641	2,786	2,941	2,988	2,855	4,111	3,322	3,313

(注) 当連結会計年度から連結財務諸表を作成しているため、平成 13 年 6 月期までは単体の実績を記載しております。

その他理化学機器

特注の分注装置の販売を中心に売上高 102 百万円となりました。従来は公的助成金等による受託開発事業の売上が寄与しておりましたが、今年度はこれらの受託事業を行っておりませんので減収となりました。これらは研究開発活動の一環として手掛けているものであり、薄利であるため損益への影響はほとんどありません。

(注) 当連結会計年度から連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較は行っておりません。

その他製品

自社加工の消耗品および装置メンテナンスを中心に売上高 109 百万円となりました。利幅の薄い一部のプラスチック消耗品(一般の消耗品)に関しては、平成 13 年 1 月より取扱いを中止したため収益は伸びませんでした。今後は、DNA 自動抽出装置に関連した消耗品の販売や装置メンテナンス活動により、この影響を十分にカバーできるものと考えております。

(注) 当連結会計年度から連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較は行っておりません。

商品(プラスチック消耗品)

商品のプラスチック消耗品は、売上高 192 百万円となりました。一昨年から DNA 自動抽出装置の新規 OEM 製品の販売に伴って、当区分は順調に売上が増加してまいりましたが、当期の期初から在庫調整の影響を受け、特に Roche 社および Genovision 社などの海外向け消耗品が落ち込みました。しかし、四半期毎の推移では回復傾向にあり、装置の出荷台数に応じて販売拡大が見込める性質があるため、今後に関しては特段の懸念はないものと考えております。

(注) 当連結会計年度から連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較は行っておりません。

(3) 研究開発活動

当四半期の研究開発活動は、開発費 241 百万円を費用計上し下記テーマに取り組めました。

SNPs 解析における新遺伝子解析法「Bio-Strand System」および「DNA 自動解析装置 BSD-6G(試作機)」の開発

現在、一般に利用されている DNA チップは、スライドガラス等の平面基盤上に予め様々な種類の DNA 断片を数百～数千種類固定する方法で作られています。一方、当社グループの独自技術により開発した DNA チップ「バイオストランド」の特徴は、糸状の纖維素材に DNA 断片を固定し、円柱状のピンに巻き付けた立体的な形状にあります。

このチップは、生産工程が簡易なことから製造コストを抑制することができるとともに、従来の技術では困難であった DNA の抽出工程から解析工程までの一貫自動化と所要時間の短縮化が可能になります。このチップを用いた SNPs 解析における新遺伝子解析法が「Bio-Strand System」であり、各個人の体質の差異に応じた最適な治療や予防医療に道筋を付け得るものであります。

当四半期におきましては、同システムを搭載した臨床分野における遺伝子解析の実用化装置として「DNA 自動解析装置 BSD-6G(試作機)」を開発いたしました。当装置は、検体の調整からハイブリダイゼーション、測定・解析までの工程を全自動化するものであります。

当社グループでは引き続き同システムの精度向上や応用範囲を広げることで、臨床分野における DNA 自動解析装置の製品化を進め、来年度下期での製品化実現を目指しております。

DNA 自動抽出装置の多機種化

当社の基幹技術である「Magtration Technology」を核として、きめ細かく機器の仕様を広げることで、追加的な開発費用を抑制しつつ、ニーズに応えながら市場を拡大していく方針であります。当四半期におきましては、新機種としてハイスループット多目的システム「SX-96GC」、大容量自動核酸抽出装置「HVSX-8G」、超小型自動核酸抽出装置「SX-6GC」の3機種の開発に成功しております。現在、新たな OEM 製品として大手試薬メーカーへの売込みを開始するとともに、「SX-6GC」に関しては自社販売も開始しております。

ビーズ型 DNA チップ「蛍光バーコードビーズ」とその測定装置の開発

当社の基幹技術である「Magtration Technology」を DNA 解析に応用した技術で、磁性体粒子の表面に蛍光標識した DNA 断片を固定し、蛍光検出することにより目的 DNA の存在の有無を判断するものです。数種類の蛍光色素を組み合わせ、標識パターンを変えることで、一度に数百種類の DNA 検出を可能とするものであります。

現在、産業技術総合研究所とビーズ開発を、古河電気工業グループと測定装置の開発を共同で進めております。「バイオストランド」同様、一貫自動化装置に対応した当社独自の解析技術であります。

遺伝子増幅工程の高速化技術「Swing-PCR」の開発

DNA の抽出工程から解析工程までの間には、遺伝子の増幅工程が必要なケースが多く存在します。これら工程の一貫自動化装置を完成するためには、遺伝子増幅の過程で一般的に用いられる PCR 法の工程を短時間化し、かつ自動化装置に対応させる必要があります。「Swing-PCR」は、遺伝子増幅工程の効率とスピードを大幅に改善し得る当社独自の技術であり、開発に取り組んでおります。

全自動 SNPs 測定装置「MagSNiPer(マグスナイパー)」の開発

現在注目されている SNPs 測定には、DNA の「抽出 増幅 検出」工程が不可欠とされていますが、「MagSNiPer」は増幅工程を経ることなく SNPs 測定を行おうというものであります。当測定装置に「Magtration Technology」を組み合わせることで、核酸抽出から SNPs 測定に至るまでを高速処理するコンパクトな装置にすることを目的としております。

当四半期においては、増幅工程を搭載した試作機 1 号を開発し、全自動 SNPs 測定装置として東京農工大学へ納入いたしました。今後、更なる共同開発を進めていく予定であります。

3. その他

(1) 発行済株式総数、資本金等の状況

発行済株式総数

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減 額(千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成 13 年 7 月 1 日 ~ 平成 14 年 3 月 31 日	25,122	33,496	-	862,003	-	1,328,025

(注) 1. 発行済株式は、全て議決権を有しております。

2. 平成 13 年 12 月 5 日開催の取締役会により、平成 14 年 2 月 20 日付で 1 株を 4 株に株式分割いたしました。これにより、発行済株式数は 25,122 株増加しております。

新株引受権の残高、行使による発行価格及び資本組入額

	平成 14 年 3 月 31 日現在		
	新株引受権の 残高(千円)	発行価格 (円)	資本組入額 (円)
第 5 回新株引受権付 無担保社債 (平成 12 年 10 月 24 日)	59,900	25,000	12,500

(注) 平成 14 年 2 月 20 日付で 1 株を 4 株に株式分割したことに伴い、新株引受権の行使価格が調整されております。

特定新規事業実施円滑化臨時措置法第 8 条第 1 項の規定に基づくストックオプションの新株発行予定残数、発行価格、資本組入額及び発行予定期間

株主総会の 特別決議日	平成 14 年 3 月 31 日現在			
	新株発行予定 残数(株)	発行価格 (円)	資本組入額 (円)	発行予定期間
平成 8 年 12 月 4 日	224	21,875	10,938	平成 11 年 1 月 15 日 平成 19 年 1 月 14 日

(注) 1. 新株発行予定残数とは、特別決議における新株発行予定数から既に発行した株式を減じた数のこととなります。

2. 平成 14 年 2 月 20 日付で 1 株を 4 株に株式分割したことに伴い、ストックオプションの発行価格が調整されております。

(2) 第3四半期連結財務諸表
第3四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	平成14年6月期第3四半期 (平成14年3月31日現在)
(資産の部)	
現金及び預金	1,056
受取手形及び売掛金	378
たな卸資産	200
その他	<u>34</u>
流動資産合計	1,671
有形固定資産	870
無形固定資産	3
投資その他の資産	<u>24</u>
固定資産合計	897
資産合計	2,568
(負債の部)	
買掛金	127
短期借入金	494
一年内返済予定の長期借入金	271
その他	<u>78</u>
流動負債合計	970
長期借入金	<u>569</u>
固定負債合計	569
負債合計	1,540
(資本の部)	
資本金	862
資本準備金	1,328
連結剰余金	1,178
為替換算調整勘定	17
資本合計	1,028
負債、少数株主持分及び資本合計	2,568

(注) 1. 百万円未満は切り捨てて表示しております。

2. 当四半期決算の数字は、監査法人の監査を受けておりません。

第3四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	平成14年6月期第3四半期 (自平成13年7月1日 至平成14年3月31日)
売上高	932
売上原価	<u>630</u>
売上総利益	302
販売費及び一般管理費	<u>661</u>
営業利益	359
営業外収益	15
営業外費用	<u>21</u>
経常利益	<u>364</u>

(注) 1. 百万円未満は切り捨てて表示しております。

2. 当四半期決算の数字は、監査法人の監査を受けておりません。

以上